

教科等横断型授業「国語」×「芸術(美術)」 学習指導案

SDGsでの課題	SDGsの番号(4番)「質の高い教育をみんなに」			
実社会での課題	私たちの日常のコミュニケーションにおいて、観念的または概念的表現を必要とする場面は多い。相手に理解してもらうためにも、また相手を理解するためにも、自分が受けた感動や印象を単に「感動した」「きれいだった」ですませず、自分の感動や思いが正確に伝わるよう、適切な言葉で表現できるようになれるかが課題である。			
生徒に身に付けさせたい資質・能力	作品に関する情報に左右されない、主観的な感動の言語化と主観的・客観的情報を自身で消化し、他の人に伝える表現力を身につける。			
主題(教材)	美術作品を鑑賞し、自分の言葉で解説文をつくろう			
指導過程	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項	資 料 等
	指 導 入	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比べ読みの結果から単元の学習内容を振り返る。 ○ 「きれい」などの簡単な言葉ですまらず、自分の思いを表すのに適切な言葉を考えるように意識させる。 	
	展 示	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ どういうところから考えたのかを明示させる。 ○ 言語化させることで自分の感覚や感情に目を向けさせ、他者に理解してもらえるように表現させる。 ○ 実際に作画した福田平八郎の情報を提示し、作者がどのように何を描いたものなのかを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パソコン ○プロジェクター ○ワークシート ○Artscape
	開	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品に関する情報や言語化した自分の思いを参考にしながら、「伝わる」「伝える」ための言葉を選ばせる。 	
	整 理	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時での学びを踏まえ、次時の学習につながる振り返りをさせる。 	
備 考				